

各年度の業務実績に関する評価結果【抜粋】

<目次>

- ・令和 1 事業年度の業務実績に関する評価結果 P. 1 - P. 2
- ・令和 2 事業年度の業務実績に関する評価結果 P. 3 - P. 5
- ・令和 3 事業年度の業務実績に関する評価結果 P. 6 - P. 8
- ・令和 4 事業年度の業務実績に関する評価結果 P. 9 - P. 11
- ・令和 5 事業年度の業務実績に関する評価結果 P. 12 - P. 15

(※) 本資料は、公立大学法人大阪の各年度の業務実績に関する評価結果のうち、「全体評価」部分を抜粋したものです。

2 全体評価

(1) 評価結果と判断理由

- 令和元事業年度の業務実績に関する評価については、5ページ以降に示すように、「大阪府立大学の教育研究に関する目標」、「大阪市立大学の教育研究に関する目標」、「大阪府立大学工業高等専門学校の教育研究に関する目標」、「業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「財務内容の改善に関する目標」、「自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標」、「その他業務運営に関する重要目標」及び「両大学の統合等に関する重要目標」の8つの大項目について、5つがA評価（「計画どおり」進捗している）、3つがB評価（「おおむね計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。
- 以上の大項目評価の結果に加え、公立大学法人大阪の基本的な目標、令和元事業年度の取組み等を総合的に評価し、令和元事業年度の業務実績については、「全体としておおむね年度計画及び中期計画のとおり進捗している」とした。

★ なお、法人の取組みを俯瞰して、本評価委員会として、次の意見を付記する。

- 全体としておおむね年度計画及び中期計画のとおり進捗していると評価できる。評価にあたっての意見、指摘等を踏まえ、次年度以降引き続き中期計画及び年度計画の達成に向けて取り組みを期待する。また、年度計画を十分に実施できていない項目については、次年度以降適切に取り組みを進められたい。

大阪府立大学の教育研究 (5ページ)	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
大阪市立大学の教育研究 (7ページ)	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
大阪府立大学工業高等専門学校の教育研究 (9ページ)	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
業務運営の改善及び効率化 (10ページ)	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
財務内容の改善 (11ページ)	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
自己点検・評価及び情報提供 (13ページ)	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
その他業務運営に関する重要目標 (14ページ)	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
両大学の統合等に関する重要目標 (15ページ)	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり

法人の基本的な目標、令和元事業年度の取組み等を総合的に考慮して・・・

<全体評価の評価結果>

「全体としておおむね年度計画及び中期計画のとおり進捗している」

<全体評価にあたって考慮した事項>

① 公立大学法人大阪の基本的な目標

○ 公立大学法人大阪の目的

豊かな人間性と高い知性を備え応用力や実践力に富む優れた人材の育成と真理の探究を使命とし、広い分野の総合的な知識と高度な専門的学術を教授研究するとともに、都市を学問創造の場と捉え、社会の諸問題について英知を結集し、併せて地域・産業界との連携のもと高度な研究を推進し、その成果を社会へ還元することにより、地域社会及び国際社会の発展に寄与することを目的としている。

○ 3つの重点目標

- ・ 先端的・異分野融合型研究の推進による高度研究型大学の実現
- ・ 応用力や実践力を備えた国際力豊かな高度人材の育成
- ・ 都市問題の解決や産業競争力の強化による大阪の発展への貢献

② 特筆すべき取組み

項目別評価の結果をもとに、特筆すべき取組みについて、次のとおり確認した。

- 大阪府立大学の産学協同による人材育成の取組として、博士課程教育リーディングプログラム「システム発想型物質科学リーダー養成学位プログラム」の事後評価において最高のS評価を取得しており、高い成果を上げている。
- 大阪府立大学の諸機関との連携・地域課題への対応の取組として、ボランティア・市民活動センターが取り組む「地域防災事業」が、堺市「さかい市民活動協働大賞」特別賞に選出されるなど、年度計画を上回って実施している。
- 大阪市立大学の国際連携活動の充実の取組として、学術交流協定・覚書等の更新・新規締結件数や取組の内容、国際交流促進に関する外部資金への応募件数などが目標を上回っていることやハノイ医科大学（ベトナム）にハノイ拠点を設置することが決定するなど、積極的な取り組みがなされている。
- 高専の研究成果の発信・還元の取組みとして、MOBIO（ものづくりビジネスセンター大阪）を活用した技術相談件数と府大と連携した技術相談件数がともに目標を大きく上回っている。
- 外部資金獲得総額が、府大・高専、市大ともに目標を上回っている。
- 病院収益が前年度比で増加を実現するなど、とりわけ病院経営における経営努力は特筆すべき取組みであると高く評価できる。
- 業務効率化及び適正化に関して、両大学、高専でのガス需給契約をガス事業者と法人間での包括協定書を締結することにより経費節減に取り組んでいる。

(2) 評価にあたっての意見、指摘等

- シラバスの英語化は重要であり、早期に実現するよう取り組まれない。(大阪府立大学：項目6)
- 入学試験における出題ミスが生じないように、出題チェック体制の見直しを行うなど、再発防止を徹底されたい。(大阪府立大学：項目16)
- 民間企業との共同・受託研究を含めた外部資金については、科研費申請の促進や増加の原因分析なども行いながら、より一層の獲得に努められることを期待する。
(大阪市立大学：項目54)
- 中小企業をはじめとする地域民間企業等の産業界ニーズに応じた共同研究・受託研究を更に推進し、地域経済のさらなる成長に貢献されることを期待する。(大阪市立大学：項目55)
- 国際連携活動の充実に関しては、次年度以降、大学間交流協定をもとにした交流のさらなる広がり期待する。(大阪市立大学：項目56)
- 理事長のトップマネジメントに関して、より一層戦略的な取り組みを期待する。(項目79)
- ダイバーシティの推進に関しては、幅広い視点から議論を深め、今後取組を進められたい。(項目83)
- 両大学及び高専で連携・共同化できる事業の積極的な取り組みを期待する。(項目117)

2 全体評価

(1) 評価結果と判断理由

- 令和2事業年度の業務実績に関する評価については、7ページ以降に示すように、「大阪府立大学の教育研究に関する目標」、「大阪市立大学の教育研究に関する目標」、「大阪府立大学工業高等専門学校の教育研究に関する目標」、「業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「財務内容の改善に関する目標」、「自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標」、「その他業務運営に関する重要目標」及び「両大学の統合等に関する重要目標」の8つの大項目について、4つがA評価（「計画どおり」進捗している）、4つがB評価（「おおむね計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。
- 以上の大項目評価の結果に加え、公立大学法人大阪の基本的な目標、令和2事業年度の取組等を総合的に評価し、令和2事業年度の業務実績については、「全体としておおむね年度計画及び中期計画のとおり進捗している」とした。

★ なお、法人の取組を俯瞰して、本評価委員会として、次の意見を付記する。

- 全体としておおむね年度計画及び中期計画のとおり進捗していると評価できる。評価にあたっての意見、指摘等を踏まえ、次年度以降引き続き中期計画及び年度計画の達成に向けた取組を期待する。また、年度計画を十分に実施できていない項目については、次年度以降適切に取組を進められたい。

大阪府立大学の教育研究 (7 ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
大阪市立大学の教育研究 (9 ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
大阪府立大学工業高等 専門学校の教育研究 (11 ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
業務運営の改善 及び効率化 (13 ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
財務内容の改善 (14 ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
自己点検・評価 及び情報提供 (15 ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
その他業務運営 に関する重要目標 (17 ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
両大学の統合等に関 する重要目標 (18 ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり

法人の基本的な目標、令和2事業年度の取組等を総合的に考慮して・・・

<全体評価の評価結果>

「全体としておおむね年度計画及び中期計画のとおり進捗している」

<全体評価にあたって考慮した事項>

① 公立大学法人大阪の基本的な目標

○ 公立大学法人大阪の目的

豊かな人間性と高い知性を備え応用力や実践力に富む優れた人材の育成と真理の探究を使命とし、広い分野の総合的な知識と高度な専門的学術を教授研究するとともに、都市を学問創造の場と捉え、社会の諸問題について英知を結集し、併せて地域・産業界との連携のもと高度な研究を推進し、その成果を社会へ還元することにより、地域社会及び国際社会の発展に寄与することを目的としている。

○ 3つの重点目標

- ・ 先端的・異分野融合型研究の推進による高度研究型大学の実現
- ・ 応用力や実践力を備えた国際力豊かな高度人材の育成
- ・ 都市問題の解決や産業競争力の強化による大阪の発展への貢献

② 特筆すべき取組

項目別評価の結果をもとに、特筆すべき取組について、次のとおり確認した。

[大阪府立大学]

- 「学習支援」の取組として、SA（スチューデント・アシスタント）・試験スタッフを新たに配置する科目数、TA（ティーチング・アシスタント）からSAに転換する科目数等が年度計画を上回った。
- 「研究体制の整備等」の取組として、21世紀科学研究センターの研究所新規開設数、新規参画教員数が年度計画を上回った。

[大阪市立大学]

- 「教育への支援」の取組として、遠隔授業の実施に関する教育支援情報を収集、整理し、教育開発支援室のHP（OCUラーニングセンターWEB）に掲載したことや、AP（大学教育再生加速プログラム）事業の事後評価においてS評価を得たことなど、年度計画を上回った。
- 「経済的支援及び学修奨励制度」の取組として、コロナ禍において経済的に困窮する学生を支援するために、大学独自の「緊急支援給付金制度」を実施するなど、学生支援の取組として、年度計画を上回った。
- 「先端的研究分野での連携」の取組として、健康科学関連テーマでの共同・受託研究の新規獲得件数、「人工光合成研究拠点」講演会の開催数、民間企業との共同・受託研究の実施数、外部資金の獲得金額が目標を上回るなど、顕著な実績をあげている。
- 「地域医療及び市民への貢献」の取組として、特定機能病院の機能を基本的には維持しつつ、コロナ重症患者の受入・治療や、十三市民病院・コロナ重症センターへの医師・看護師の派遣、ワクチン集団接種会場への医師・看護師の派遣等の新型コロナウイルス感染症の対応を実施したことは年度計画を超えた取組であり、顕著な実績であると評価できる。
- 附属病院の運営に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、診療収益が大幅に減収する中、空床補償等の補助金確保や診療経費の削減等、安定的な病院運営に努めていると評価できる。

[大阪府立大学工業高等専門学校]

- コース再編やカリキュラム改革、学舎移転等を含む高専の改革案を策定したことは高く評価できる。

[法人]

- 大阪府立大学・高専、大阪市立大学の外部資金獲得金額について、目標を上回った。
（府大・高専：37.1億円／目標30億円、市大：47.9億円／目標41億円）
- 新型コロナウイルス感染症対策事業の寄附募集等を実施した結果、大阪府立大学・高専、大阪市立大学での寄附金獲得金額が目標を大きく上回っており、顕著な実績といえる。

(2) 評価にあたっての意見、指摘等

- 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、多くの授業をオンライン授業に切り替えて対応するなど、両大学・高専において多大な努力がなされ、教育が滞りなく行われたことは高く評価できる。引き続き、教育の質保証・向上に取り組まれない。
- 専門職種に関する国家試験については、高い合格率を維持できるよう一層の教育内容及び方法の充実に取り組むことを期待する。(大阪府立大学：項目2)
- 先端的研究分野において一層の産学連携を進め、先端的研究の充実に取り組むことを期待する。(大阪市立大学：項目54)
- コース再編やカリキュラム改革、学舎移転等を含む高専の改革案を策定したことは高く評価できる。(大阪府立大学工業高等専門学校)
- 女性教員の比率向上等、ダイバーシティの推進に関しては、中期計画の達成に向けて一層の努力を期待する。(項目83)
- 海外向けの広報に係る英文プレスリリース件数については、昨年度実績以上に増加しているものの、件数の目標設定自体をより高く設定することや、研究者一人一人の意識醸成への取組等も含め、海外広報に向けた活動強化を期待する。(項目97)
- 業務実績の評価においては、両大学と法人の取組を重複して評価することとならないよう留意されたい。また、中期計画及び年度計画の策定にあたっては、中期目標に対応する適切な中期計画・年度計画の内容を策定し、その内容と達成水準との整合性を考慮することに留意されたい。

2 全体評価

(1) 評価結果と判断理由

- 令和3事業年度の業務実績に関する評価については、7ページ以降に示すように、「大阪府立大学の教育研究に関する目標」、「大阪市立大学の教育研究に関する目標」、「大阪府立大学工業高等専門学校の教育研究に関する目標」、「業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「財務内容の改善に関する目標」、「自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標」、「その他業務運営に関する重要目標」及び「両大学の統合等に関する重要目標」の8つの大項目について、4つがA評価（「計画どおり」進捗している）、4つがB評価（「おおむね計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。
- 以上の大項目評価の結果に加え、公立大学法人大阪の基本的な目標、令和3事業年度の取組等を総合的に評価し、令和3事業年度の業務実績については、「全体としておおむね年度計画及び中期計画のとおり進捗している」とした。

★ なお、法人の取組を俯瞰して、本評価委員会として、次の意見を付記する。

- 法人において、大阪公立大学の設置認可申請や初めての入学者選抜を確実に実施するなど、大阪公立大学の開学を実現されたことは、評価できる。
 今後、教育・研究の強化に加えて、幅広い学問領域を活かした社会課題を解決する機能の充実など、大学の統合効果の発揮に向けて計画を進め、高度研究型大学として、大阪の発展をけん引する「知の拠点」の役割を果たされることを期待する。
 また、大阪公立大学等の取組を府民および市民、ひいては社会に広く情報発信されるよう積極的に広報の取組を推進いただきたい。

大阪府立大学の教育研究 (7 ページ)	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
大阪市立大学の教育研究 (9 ページ)	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
大阪府立大学工業高等専門学校の教育研究 (11 ページ)	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
業務運営の改善及び効率化 (13 ページ)	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
財務内容の改善 (14 ページ)	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
自己点検・評価及び情報提供 (16 ページ)	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
その他業務運営に関する重要目標 (18 ページ)	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
両大学の統合等に関する重要目標 (19 ページ)	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり

法人の基本的な目標、令和3事業年度の取組等を総合的に考慮して・・・

<全体評価の評価結果>

「全体としておおむね年度計画及び中期計画のとおり進捗している」

<全体評価にあたって考慮した事項>

① 公立大学法人大阪の基本的な目標

○ 公立大学法人大阪の目的

豊かな人間性と高い知性を備え応用力や実践力に富む優れた人材の育成と真理の探究を使命とし、広い分野の総合的な知識と高度な専門的学術を教授研究するとともに、都市を学問創造の場と捉え、社会の諸問題について英知を結集し、併せて地域・産業界との連携のもと高度な研究を推進し、その成果を社会へ還元することにより、地域社会及び国際社会の発展に寄与することを目的としている。

○ 3つの重点目標

- ・ 先端的・異分野融合型研究の推進による高度研究型大学の実現
- ・ 応用力や実践力を備えた国際力豊かな高度人材の育成
- ・ 都市問題の解決や産業競争力の強化による大阪の発展への貢献

② 令和3事業年度における特筆すべき取組

項目別評価の結果をもとに、特筆すべき取組について、次のとおり確認した。

[大阪府立大学]

- 「学士課程の教育の質の向上」の取組として、職業倫理及びキャリア形成を涵養する科目を、学士課程において32科目、大学院課程において11科目提供するなど、年度計画を上回った。
- 「産学協同による人材育成」の取組として、「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」、「次世代研究者挑戦的研究プログラム」が採択されたことは評価できる。
- 「教員の教育力の向上・組織的な教育改善」の取組として、オンラインで実施した全学FD（ファカルティ・ディベロップメント）研修の参加者数、FD活動への専任教員参加率、ポートフォリオシステムへの「授業振り返り」全体入力率が目標を上回っており、年度計画を上回った。
- 「就職支援（留学生含む）」の取組として、就職支援イベントの開催数や、個別キャリア相談件数及び少人数対面でのインタラクティブセミナー参加者数等が目標を上回って実施しているなど、年度計画を上回った。
- 「学習支援」の取組として、TA（ティーチング・アシスタント）を新たに配置する科目数が目標を上回っており、年度計画を上回った。
- 「大阪の産業活性化への貢献」の取組として、未活用特許の技術移転に向けて、新規技術移転支援を行った件数が目標を上回っており、年度計画を上回った。
- 「諸機関との連携・地域課題への対応」の取組として、宇宙航空人材育成プログラムが事後評価で「S」評価を受けるなど、年度計画を上回った。

[大阪市立大学]

- 「就職進路支援」の取組として、就職ガイダンスや企業セミナーをオンラインで実施することに加え、大阪労働局等と連携して開催したセミナーの参加者数が目標を上回るなど、年度計画を上回った。
- 「安全衛生管理」の取組として、学生定期健康診断について、新型コロナウイルス感染症の影響により実施したWeb問診の受診率が昨年度より向上しており、年度計画を上回った。
- 「若手・女性研究者等の支援」の取組として、戦略的研究経費の支給や女性研究者支援室による研究支援員の配置などに加え、国立研究開発法人科学技術振興機構（略称JST）に採択された事業に若手研究者や女性研究者が参画していることなど、年度計画を上回った。
- 「先端的研究分野での連携」の取組として、健康科学関連テーマでの共同・受託研究の新規獲得件数、人工光合成研究拠点主催の講演会の開催数や民間企業等との共同・受託研究実施件数及び外部資金の獲得金額が目標を上回っており、年度計画を上回った。

- 「学生の国際交流の拡充」の取組として、外国人留学生向け短期研修の開催数、大阪市立大学及び大阪公立大学の英語Webサイトにおける研究ニュースの発信数が目標を上回っており、年度計画を上回った。
 - 「地域医療及び市民への貢献」の取組として、地域医療従事者対象セミナーや市民公開講座が目標を上回って実施している。また、がん指導薬剤師等の育成に関して、全国規模の学会での演題発表及び全国的学会誌・学術雑誌への学術論文投稿数が目標を上回るなど、年度計画を上回った。
- [大阪府立大学工業高等専門学校]
- 全教員を対象としたFD活動や、公開授業の設定など、教員の教育力の向上・組織的な教育改善に向けて活発に活動している。
- [法人]
- 「自己収入の確保」の取組として、府大・高専、市大において、外部資金獲得に向けた取組を通じて、外部資金獲得金額が目標を上回るなど、年度計画を上回った。
 - 「情報の提供（府大・高専）」の取組として、教育と研究に関するニュースや、英語による研究概要情報のWebサイト上への掲載件数が目標を上回るなど、年度計画を上回った。
 - 「市民への広報活動の強化（市大）」の取組として、記者懇談会・記者勉強会の開催回数、SDGsサイトTOPICS発信回数等が目標を上回るなど、年度計画を上回った。
 - 多くの学生・教職員等に対し、新型コロナウイルスワクチンの職域接種を実施されたことは評価できる。
 - 「研究者の育成」及び「グローバルに活躍できる研究者の育成」の取組として、「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」に加え、「JST次世代研究者挑戦的研究プログラム」の採択を受け、博士後期課程学生への支援実施に向けて取り組むなど、年度計画を上回った。
 - 新大学として最初となる入学者選抜をトラブルなく実施するなど、新大学の開学に向けて府立大学と市立大学の統合を計画どおりに進められたことは評価できる。

(2) 評価にあたっての意見、指摘等

- TOEIC対策講座の取組に関しては、試験の受験率や成績の向上等の成果に係る数値を把握することや、それらの指標を達成水準にすることなどについて検討されたい。
(大阪府立大学・項目6)
- 附属病院におけるオンラインを活用した市民向けの各種セミナーについては、地域貢献の観点から、アフターコロナにおいても継続して取り組んで頂きたい。
(大阪市立大学・項目60)
- 専攻科における海外インターンシップなど、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて事業中止となった取組については、感染状況が改善した際には、再開に向けて検討を進めていただきたい。(大阪府立大学工業高等専門学校)
- 全教員を対象としたFD活動や、公開授業の設定など、教員の教育力の向上・組織的な教育改善に向けて活発に活動されており、引き続き、取組を継続されることを期待する。
(大阪府立大学工業高等専門学校・項目69)
- 新大学設立時において附属病院長が選任されていないことから、早期に新大学としての運営体制を決定いただきたい。(法人・項目79)
- 女性教員の比率向上等、ダイバーシティの推進に関しては、中期計画の達成に向けて引き続きの努力を期待する。(法人・項目83)
- 寄附金確保の取組に関しては、目標設定の妥当性を含め、令和3年度の達成状況等の実績を検証し、今後の取組に活かしていただきたい。(法人・項目90)
- 情報の提供及び広報に関する取組に関しては、効果的な取組となるよう、効果測定方法を含め工夫・改善の努力を継続されることを期待する。(法人・項目94～98)

2 全体評価

(1) 評価結果と判断理由

- 令和4事業年度の業務実績に関する評価については、6ページ以降に示すように、「大阪公立大学に関する目標」、「大阪公立大学工業高等専門学校に関する目標」、「大阪府立大学及び大阪市立大学に関する目標」、「業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「財務内容の改善に関する目標」、「自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標」及び「その他業務運営に関する重要目標」の7つの大項目について、4つがA評価（「計画どおり」進捗している）、3つがB評価（「おおむね計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。
- 以上の大項目評価の結果に加え、公立大学法人大阪の基本的な目標、令和4事業年度の取組等を総合的に評価し、令和4事業年度の業務実績については、「全体としておおむね年度計画及び中期計画のとおり進捗している」とした。

★ なお、法人の取組を俯瞰して、本評価委員会として、次の意見を付記する。

- 大阪公立大学の開学初年度において、統合した大学の運営に着実に取り組み、全体としておおむね年度計画及び中期計画のとおり進捗していることは評価できる。

今後、大阪公立大学において、教育の充実や大学の強みを活かした研究の推進、さらなる産学官連携など、研究成果を社会に還元し、地域社会及び国際社会の発展に寄与することを期待する。

また、大阪公立大学工業高等専門学校においては、DX（デジタル・トランスフォーメーション）教育の推進など、社会から求められる高度な実践的技術者の育成に向けて取り組むことを期待する。

さらに、法人においては、大阪公立大学等の魅力や研究成果を、府民及び市民、ひいては社会に広く情報発信されるよう積極的に広報の取組を推進するとともに、業務の効率化及び適正化に取り組むなど、引き続き、法人運営における取組の充実・強化を期待する。

大阪公立大学 (6ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
大阪公立大学 工業高等専門学校 (9ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
大阪府立大学及び 大阪市立大学 (10ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
業務運営の改善 及び効率化 (11ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
財務内容の改善 (12ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
自己点検・評価 及び情報提供 (13ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
その他業務運営 に関する重要目標 (14ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり

法人の基本的な目標、令和4事業年度の取組等を総合的に考慮して・・・

<全体評価の評価結果>

「全体としておおむね年度計画及び中期計画のとおり進捗している」

<全体評価にあたって考慮した事項>

① 公立大学法人大阪の基本的な目標

○ 公立大学法人大阪の目的

豊かな人間性と高い知性を備え応用力や実践力に富む優れた人材の育成と真理の探究を使命とし、広い分野の総合的な知識と高度な専門的学術を教授研究するとともに、都市を学問創造の場と捉え、社会の諸問題について英知を結集し、併せて地域・産業界との連携のもと高度な研究を推進し、その成果を社会へ還元することにより、地域社会及び国際社会の発展に寄与することを目的としている。

○ 3つの重点目標

- ・ 先端的・異分野融合型研究の推進による高度研究型大学の実現
- ・ 応用力や実践力を備えた国際力豊かな高度人材の育成
- ・ 都市問題の解決や産業競争力の強化による大阪の発展への貢献

② 令和4事業年度における特筆すべき取組

項目別評価の結果をもとに、特筆すべき取組について、次のとおり確認した。

[大阪公立大学]

- 履修証明プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム（アントレプレナーシップ教育力育成コース）」の開講を通じて、多様なキャリアパスを持った人材育成を進めていることに加え、社会問題解決型PBLの実施について、新型コロナウイルス感染症の影響から目標件数を1件としていたが、5件実施するなど、年度計画を上回って実施していると認められる。
- 専任のボランティアコーディネーターを配置し、説明会を実施した結果、ボランティアセンター新規登録学生数が目標を上回るなど、年度計画を上回って実施していると認められる。
- 対面とオンラインを併用した取組を行った結果、個別キャリア相談件数及び就職支援イベント回数が目標を上回るなど、年度計画を上回って実施していると認められる。
- オンラインの活用による高等学校教員対象説明会や対面とオンラインを併用したオープンキャンパスの実施、近畿圏以外における合同入試説明会の開催など、入試広報活動に取り組むとともに、令和4年4月に設置したアドミッションセンターにおいて、令和4年度の入試結果を分析し、その結果を学内に情報共有を図るなど、年度計画を上回って実施していると認められる。
- 女性研究者に対するスキルアップセミナーの実施回数や研究チームの女性リーダー育成を目的に実施した「連携型共同研究助成」の採択件数、URAによる若手研究者等への科研費申請支援件数が目標を上回るなど、年度計画を上回って実施していると認められる。
- 地域のコミュニティ防災人材育成事業の開催数及び参加者数、地域社会や行政機関との連携による地域連携センターへの相談件数、行政ニーズと学内の教育・研究シーズとのマッチング件数が目標を上回っており、年度計画を上回って実施していると認められる。
- I-siteなんば及び文化交流センターを利用した公開講座の開催件数や土日・平日夜間における公開講座及びオンラインでの公開講座の開催件数が目標を上回るなど、年度計画を上回って実施していると認められる。

〔大阪府立大学及び大阪市立大学〕

- (府大) 就職支援イベントの開催実績、キャリア相談件数、少人数インタラクティブセミナー参加者及び就職率が目標を上回っており、年度計画を上回って実施していると認められる。
- (市大) 就職ガイダンス、企業セミナーの延べ参加者数、留学生向け就職ガイダンスの実施回数、低学年次も対象に含んだ「キャリア支援ガイダンス」の実施回数、就職率が目標を上回っており、年度計画を上回って実施していると認められる。

〔法人〕

- 国際広報室を設置し、日本語研究リリースの英語化及びその発信を推進しており、研究プレスリリースの発信や英語での研究リリース情報の発信が目標を上回るなど、年度計画を上回って実施していると認められる。

(2) 評価にあたっての意見、指摘等

- 課外活動支援の取組に関しては、ボランティアセンターに登録している登録者数だけでなく、実際にこういった活動にどれくらいの学生が取り組んでいるのか、それらの指標を達成水準にすることなどについて検討されたい。(大阪公立大学 項目7)
- 多様な能力や個性をもつ優秀な学生の確保を図るため、高大接続・高大連携や入学者選抜の実施方法の改善など、積極的な取組を期待する。(大阪公立大学 項目11)
- 産業活性化の貢献にむけて、さらなる産学官連携を期待する。(大阪公立大学 項目18)
- 数理・データサイエンス・AI教育プログラムについては、社会から強く求められる重要な分野であることから、修得率の向上に向けて、更なる取組に努められたい。(高専 項目27)
- 獣医師の国家試験合格率が全国平均を下回った原因の分析と今後の合格率の向上にむけた対策に取り組んでいただきたい。(府大及び市大 項目34)
- 女性教員の比率向上等、ダイバーシティの推進に関しては、組織の活性化を図るため、重要な項目であり、引き続き、取組を継続していただきたい。(法人運営 項目49)
- 法人の財務内容については、経常収益が前年度を上回ったものの、昨今の世界経済の影響による光熱水費高騰などにより経常損益がマイナスとなった。令和5年度以降もこうした状況は収束が見えないことから、引き続き、業務の見直しや組織の集約等に取り組むなど、業務の効率化及び適正化を図られたい。また、附属病院の運営においては、引き続き、経常収益を確保する取組を進められたい。(法人運営 項目52)
- 広報に関する取組に関しては、新聞、テレビ等のメディアで取り扱われていることは評価できる。引き続き、SNSなどのメディアも効果的に活用するとともに、広報効果を分析・検証し、大学ブランドのさらなる向上にむけて、戦略的な広報を展開されることを期待する。(法人運営 項目55)
- 法令遵守等の業務の適正性を確保する取組を進めるなど、コンプライアンスの推進に引き続き取り組んでいただきたい。(法人運営 項目64)

2 全体評価

(1) 評価結果と判断理由

- 令和5事業年度の業務実績に関する評価については、7ページ以降に示すように、「大阪公立大学に関する目標」、「大阪公立大学工業高等専門学校に関する目標」、「大阪府立大学及び大阪市立大学に関する目標」、「業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「財務内容の改善に関する目標」、「自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標」及び「その他業務運営に関する重要目標」の7つの大項目について、5つがA評価（「計画どおり」進捗している）、2つがB評価（「おおむね計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。
- 以上の大項目評価の結果に加え、公立大学法人大阪の基本的な目標、令和5事業年度の取組等を総合的に評価し、令和5事業年度の業務実績については、「全体としておおむね年度計画及び中期計画のとおり進捗している」とした。
- なお、法人の取組を俯瞰して、本評価委員会として、次の意見を付記する。
 大学の統合以降、着実に大学運営に取り組むなど、全体としておおむね年度計画及び中期計画のとおり進捗していることは評価できる。
 特に、大阪公立大学においては、入学者選抜や外部資金の獲得等において、年度計画を大幅に上回る実績が認められ、統合した大学の運営に取り組む中で、これらの成果が出てきていることは、高く評価するに値する。今後、教育の充実や大学の強みを活かした研究、産学官民の連携等をさらに推進し、研究成果を社会に還元することにより、公立大学としてより一層の貢献を期待する。
 また、大阪公立大学工業高等専門学校においては、社会から求められるDX教育に着実に取り組んでおり、その取組は評価できる。今後、大阪公立大学とのさらなる連携強化に取り組まれることを期待する。
 さらに、法人においては、今後も、大阪公立大学等の魅力や研究成果をより積極的に情報発信するとともに、業務の効率化及び適正化に取り組むなど、引き続き、法人運営における取組の充実・強化を期待する。

大阪公立大学 (7ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
大阪公立大学 工業高等専門学校 (9ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
大阪府立大学及び 大阪市立大学 (10ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
業務運営の改善 及び効率化 (11ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
財務内容の改善 (12ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
自己点検・評価 及び情報提供 (13ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
その他業務運営 に関する重要目標 (14ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり

<全体評価の評価結果>

「全体としておおむね年度計画及び中期計画のとおり進捗している」

<全体評価にあたって考慮した事項>

① 公立大学法人大阪の基本的な目標

○ 公立大学法人大阪の目的

豊かな人間性と高い知性を備え応用力や実践力に富む優れた人材の育成と真理の探究を使命とし、広い分野の総合的な知識と高度な専門的学術を教授研究するとともに、都市を学問創造の場と捉え、社会の諸問題について英知を結集し、併せて地域・産業界との連携のもと高度な研究を推進し、その成果を社会へ還元することにより、地域社会及び国際社会の発展に寄与することを目的としている。

○ 3つの重点目標

- ・ 先端的・異分野融合型研究の推進による高度研究型大学の実現
- ・ 応用力や実践力を備えた国際力豊かな高度人材の育成
- ・ 都市問題の解決や産業競争力の強化による大阪の発展への貢献

② 令和5事業年度における特筆すべき取組

項目別評価の結果をもとに、特筆すべき取組について、次のとおり確認した。

[大阪公立大学]

○ 大学における生成AIの活用をテーマとしたフォーラムなど、多岐にわたるFD（ファカルティ・ディベロップメント）・SD（スタッフ・ディベロップメント）事業に取り組んでおり、年度計画を上回って実施していると認められる。（項目4）

○ ボランティアセンター新規登録学生数や杉本キャンパスの新規学生スタッフ数が目標を上回るなど、年度計画を上回って実施していると認められる。（項目7）

○ 新たに5名のキャリアカウンセラーを増員し、学生の多様な事情に応じた支援を行い、その結果、個別キャリア相談件数が目標を大きく上回るなど、年度計画を大幅に上回って実施していると認められる。（項目8）

○ 志願者の動向分析等を参考に、志願者数が低い地域への入試広報活動の強化等に取り組み、一般選抜（学部・学域）入試志願者数が、開学以来、2年連続で前年度を上回り、国公立大学において日本一となるなど、年度計画を大幅に上回って実施していると認め、評価Vと判断した。（項目11）

○ 女性研究者支援室によるスキルアップセミナーの実施回数、女性研究者をリーダーとする共同研究への助成件数、URAによる若手研究者等への科研費申請支援件数や博士後期課程学生へのメンタリング件数が目標を大きく上回るなど、年度計画を大幅に上回って実施していると認められる。（項目12）

○ 若手研究者支援として実施した創発的研究支援事業への申請支援件数や1,000万円以上の公的受託研究事業への申請支援件数の目標を大きく上回るなど、年度計画を大幅に上回って実施していると認められる。（項目14）

○ 文部科学省「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」に採択され、産学官民共創施設の整備を進めるとともに、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に公立大学として唯一採択されるなど、「都市シンクタンク」及び「技術インキュベーション」機能の充実に取り組んでいる。

また、感染症に強い都市づくりに貢献するため、「大阪国際感染症研究センター」を本格稼働

させ、研究力強化に向けて長崎大学との包括連携協定を締結するなど、年度計画を大幅に上回って実施していると認められる。(項目19)

[大阪公立大学工業高等専門学校]

- 数理・データサイエンス・AI教育プログラムについて、単位修得に向けた支援に取り組むことによりプログラム修得率を向上させるなど、年度計画を上回って実施していると認められる。(項目27)

[大阪府立大学及び大阪市立大学]

- 多岐にわたるFD・SD事業に取り組むなど、大阪公立大学、大阪府立大学、大阪市立大学の3大学で一体的に教職員の教育力向上に取り組んでおり、年度計画を上回って実施していると認められる。(項目36、項目39)
- 個別キャリア相談件数が目標を大きく上回るなど、大阪公立大学、大阪府立大学、大阪市立大学の3大学で一体的にキャリア支援に取り組んでおり、年度計画を大幅に上回って実施していると認め、評価Vと判断した。(項目41、項目43)

[法人]

- ICT推進室会議における審議を通じて、適正な情報システムの調達に取り組み、システム整備の全体最適化を推進するなど、年度計画を上回って実施していると認められる。(項目47)
- URAによる申請支援等の活動やマッチングイベント等の産学官連携活動により、共同研究等の獲得支援を実施し、外部資金を117億円獲得するなど、年度計画を上回って実施していると認められる。(項目51)
- メディア懇談会の開催やWEBマガジン・研究プレスリリースの発信による広報活動等が目標を上回っており、大阪公立大学について新聞、テレビ等のメディアで2,211件取り扱われるなど、年度計画を大幅に上回って実施していると認められる。(項目55)

(2) 評価にあたっての意見、指摘等

- 大阪公立大学において、一般選抜（学部・学域）入試の志願者数が2年連続で前年度を上回り、国公立大学において日本一となったことや、文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に公立大学として唯一採択されたことなど、6つの項目において、年度計画を大幅に上回る実績が認められ、これらの成果は、高く評価するに値する。（大阪公立大学・項目8、項目11、項目12、項目14、項目19、項目22）
- ボランティア活動の内容や学生の参加実績など、支援を通じてどのような効果があったのか、検証いただきたい。（大阪公立大学・項目7）
- 「研究力の強化」（大阪公立大学・項目12）、「大学の強みを活かした研究の推進」（大阪公立大学・項目14）について、第2期中期計画においては、各種支援による研究力強化の成果について、指標を設定するなど、評価指標について検討いただきたい。
- 附属病院において、参加希望者数の目標が達成できなかった危機対応能力育成プログラムについては、病院全体として、全診療科に対する募集の早期周知や、参加希望者に対する支援などに取組んでいただきたい。

また、研修修了者数の目標が達成できなかった特定行為研修については、今後も、やむを得ない事情により、受講者（看護師）が年度途中で研修を継続できなくなることが十分に想定されることから、本制度の目的や効果（チーム医療の推進や医師の負担軽減等）に関連した目標設定について検討いただきたい。（大阪公立大学・項目24）
- 大阪公立大学と連携した教育について、より一層進めていただきたい。（高専・項目27）
- 在校生、卒業生、企業へのアンケートを実施した結果を検証し、高専の教育の質向上に活かしていただきたい。（高専・項目29）
- 引き続き、大阪公立大学、大阪府立大学、大阪市立大学の3大学で一体的に教育の質向上や学生支援などの取組を進めていただきたい。（府大・市大）
- IRシステムを導入し収集したデータの分析・活用について、引き続き取り組んでいただきたい。（法人運営・項目46）
- 業務の効率化及び適正化の取組にあたっては、定量的な指標を設定するなど、客観的指標による評価を取り入れることなども検討いただき、効率的な運営に努めていただきたい。（法人運営・項目52）
- 広報に関する取組に関しては、新聞、テレビ等のメディアで取り扱われていることは評価できる。引き続き、広報効果を分析・検証し、大学ブランドのさらなる向上にむけて、戦略的な広報を展開されることを期待する。（法人運営・項目55）
- 「研究基盤共用センターにおける大阪公立大学研究設備マスタープラン（仮称）」の策定については、全学的な研究機器共用化の推進に向け、2024年度中に、策定及び学内周知を実施されるよう、引き続き取り組んでいただきたい。（法人運営・項目57）